

入場者数2万人超え

『戦国BASARA』HERO 武器・武具列伝

7月23日から9月4日まで、備前長船刀剣博物館で特別展『戦国BASARA』HERO 武器・武具列伝を開催しました。市内外から多くの人々が来場し、展示最終日には、入場者数が2万人を超えました。夏休み期間を利用した学生、キャラクター目当ての親子連れなど客層は若い世代が目立っていました。県外からの来場も多く、反響の大きさを物語っていました。

戦国時代にも使われていた組紐や勝ち袋(匂袋)を作ったり、刀を分解してその構造を学ぶなどの体験型イベントも好評で、参加者は刀剣や戦国時代の文化について理解を深めていました。



記念品を受け取る2万人目の来場者

上手に出来るかな、わくわくチャレンジ

紙粘土遊びとムース作り



ゼリーの素材になるトマトの皮むきを手際よく行う参加者たち

7月23日、子どもたちに年間を通じて四季折々の体験をしてもらう「わくわくチャレンジ」の一環として、牛窓町公民館で「四季薫る紙粘土遊び・地元野菜を使ったムース作り」を行いました。

参加者は、地元産のカボチャを使ったムースとトマトを使ったゼリーを協力して作り、冷やし固めている間に、紙粘土を使って夏を感じさせる金魚やうちわなどを作りました。

紙粘土の作品が完成した後は、出来上がったムースとゼリーを食べながら、素材の風味や食感についての感想などを話し合い、会話にも花が咲きました。

迫力のある音と美しい光

牛窓花火大会

8月6日、牛窓港周辺(牛窓町牛窓)で花火あげ隊による牛窓花火大会が行われ、約2,000発の花火が夜空と水面を彩りました。

開始約30分前に予告の花火が上がると、訪れていた観客は一斉に空を見上げ、開始が待ち遠しい雰囲気。露店のテントが数多く立ち並んだ会場付近は賑わっており、市内外から訪れた観客は、迫力のある音と美しい光が織りなす夏の風物詩を楽しんでいました。

打ち上げが終わると自然と称賛の拍手がわき起こり、帰路では来年の打ち上げに向けた募金に協力する姿も多く見られました。



夜空と海面の両方を美しく彩った花火

cover photograph



7月27、28日に千手山弘法寺遍明院(牛窓町千手)で夏の寺子屋勉強会が行われました。100人を超える市内外の小学生とジュニアリーダーの中学生らが参加しました。27日は千手山の歴史について学んだ後、市の重要文化財に指定されている常行堂(表紙写真奥側の建物)へ参拝し、お堂の近くでの虫取りも行いました。

今月の表紙



まちの話題



問 政策調整課 : 0869-22-1113

人形劇の祭典

第23回喜之助フェスティバル瀬戸内

8月20、21日の2日間、中央公民館(邑久町尾張)などで人形劇の祭典喜之助フェスティバルが開催されました。本市出身の世界的な糸操り人形師・故竹田喜之助氏を顕彰し、地域おこしにつなげようと毎年開催されているものです。今回は、喜之助の弟子・鈴木友子さんやプロ6劇団、アマチュア6劇団、おはなしグループ5団体が熱のこもった演技などを披露しました。

朝から親子連れが詰め掛け、上演時刻を確認しては、会場を巡っていました。中央公民館ロビーでは、竹田扇壽さんが江戸時代から伝わる獅子舞を披露し、軽やかに舞う獅子の動きに子どもたちの目は釘付けに。

アマチュア劇団の構成員は、小学生から社会人までさまざま。それぞれがフェスティバルに向けて、手作りの人形を使い練習を重ねてきました。昔話に創作を加えて村人に心を開くやまんばを描いたちょう・かえる一座の「うしかたとやまんば」など、上演される作品の心温まる物語に観客は魅了されていました。



糸で操るピエロを作ったワークショップ(左) / かわいい獅子舞が頭をガブリ(右)



①くす玉割りなど華々しく行われた開会式 / ②子どもたちも一緒に会場を盛り上げた参加型人形劇 / ③会場は親子連れで満席状態